

QuikDeckは頼もしい
武器であり防具。
一緒に業界を
盛り上げていきたい。

京都ならではの寺社仏閣の
素屋根足場の施工も行っている株式会社ディライト。
これまでの取り組みとQuikDeckについて
井上大輔社長にお話を伺いました。



ホルダー会社
株式会社ディライト
代表取締役
井上大輔様
いのうえ だいすけ

QD Vol.19
Interview
Holder



【会社概要】
会社名：株式会社ディライト
創業：2006年
代表者：代表取締役 井上大輔
所在地：京都府宇治市大久保町南ノ口64-5
TEL：0774-34-5114 FAX：0774-34-5248
ホームページ：http://delight-kasetuashiba.com/

■京都御所での素屋根足場の施工も実施

2006年に創業し今年で15周年を迎えた株式会社ディライト。官庁関係の土木工事を中心に、JRやNEXCO、阪神高速道路などの仮設工事の足場・支保工の施工を行っています。京都隣接県を主な事業区域としていますが、京都という土地柄、宮内庁管轄の京都御所や社寺仏閣などの工事もあり、この業界では珍しい素屋根足場の施工も得意としています。

新しい物事にチャレンジすることが好きで、いろいろと新しいことを取り入れて成長してきたという井上大輔社長。仕事を進めていく上でも最初の打ち合わせの段階から参加して、提案しながら進行し、信頼を得るといことを大切にしているそうです。

「新型コロナの影響もあり、民間の需要は下がっていきそうですし、公共工事には社会保険未加入業者は参加できなくなっていくので民間工事の競争激化が予想されます。公共工事はインフラのメンテナンス工事などは継続して行っていくと思いますので、そこを中心に事業を展開していきたいと考えています」と井上大輔社長。毎年のように被害が出ている豪雨災害による基準の見直しなども行われることも見込み、公共工事に力を入れていきたいと展望をお話しくれました。

■QuikDeckは人手が不足している
現代にマッチした製品

井上社長がQuikDeckの存在を知ったのは今から4年前のこと。初めて見たのは紹介動画でしたが、先行して床ができていく様子に衝撃を受けたといいます。

「吊足場の施工は非常に大きな危険が伴います。しかしQuikDeckは床板先行で安全性を確保しながら、スムーズに組んでいけるというアイデアに驚きました」（井上社長）。

そして、QuikDeckを最初に採用したのが橋梁の補修工事でした。この現場は特殊なケーブルトラス構造の橋梁で、ワイヤーの障害物や3段の段落ちなど難しい条件が重なっており、心配をしていましたが、QuikDeckは作業性が良いため、あまり支障になることはなく、結果的には非常にスムーズに施工できたそうです。

「施工を行った社員からも大変好評でしたので、その段階で、今後はこれだと確信しました」と井上社長。

QuikDeckは施工性も良く、比較的容易に施工技術を習得できるため、人手不足が大きな課題になっている現在の時代にマッチした製品だということ強く感じたそうです。



(上) 京都御所の宜秋門改修工事の素屋根足場
(中左) 葵祭の牛車を今の天皇陛下が皇太子様の時に見学に来られるとのことで作った足場
(中右) 伏見稲荷内の茶屋の新設工事
(下左) 桂川橋梁 (下右) 保津川橋梁

■QuikDeckのおかげで
不景気な時代でもワクワクしている

QuikDeckを導入して現在は約1,000㎡を保有し、施工した現場も累積で約20現場となる株式会社ディライト。まだまだQuikDeckを増やしたいとのことですが、ヤードが手狭になってきたので新しい場所を探しているそうです。井上社長に改めてQuikDeckのメリットを伺ってみました。

「施工会社からすると最大のメリットは安全性です。在来工法は常に危険を伴い、技術も必要となります。弊社職員はもちろん同じ建設業の仲間が事故にあうことは、なんとしても避けなければなりません。命は何物にも代えることはできませんから。発注者も元請けももっとQuikDeckを採用すべきだと思います。実際に発注者や元請けからも好評なのでQuikDeckを取り入れて欲しいといく声をよく聞くようになりました。逆に元請けから『QuikDeckって知ってる?』と聞かれることもありますよ」と井上社長。

また、少人数で、なおかつ短期間で出来高が上がる点も大きなメリットだということです。

最後に井上社長から今後の展開に向けてのコメントを語っていただきました。

「今後も景気の回復はあまり期待できませんが、やらないといけない工事はいくつもあります。競争も激化が予想されますが、QuikDeckを導入したことで、強力な武器を与えてもらったように感じています。不景気な時代でもなぜかワクワクしている自分がいます。このピンチをチャンスに変えていきたいですし、できる気はしません。またQuikDeckは従業員を守り、下請業者も守り、会社も守ってくれる防具にもなります。私はQuikDeckという最高の武器と防具を持たせてくれた日綜産業さんに感謝していますし、今後も一緒に業界を盛り上げて成長していきたいと考えています」（井上社長）。



(上) 宇治川大橋 (下) 立命館大学体育館